



編集・発行 一般社団法人日本統合医療学会広報委員会 委員長 川嶋みどり URL:http://imj.or.jp/
〒112-0013 東京都文京区音羽1-1-9 パイファルビルディング音羽5階 アドバンテージ株式会社(内)
一般社団法人日本統合医療学会事務局 E-mail:imj@imj.or.jp TEL:03-5978-6850 FAX:03-6912-0376

巻頭言



日本の未来型医療としての 統合医療

仁田 新一

一般社団法人日本統合医療学会理事長

今秋は鹿児島支部大会、北海道支部大会、山形県支部大会など、各県のIMJ大会が開催された。各支部ともそれぞれ独自のスタイルと内容の濃い素晴らしい大会であった。市民のための統合医療を旗印に、専門領域の相違を超えて尊敬し合い連携プレーの意義を認め合う様子を頼もしく思った。今年度の重点課題である支部活動の活性化が着々と進みつつある。

さて、二期目の理事長に推挙されて思うことは、いよいよ、未来型医療としての統合医療の新たな展開の時代を迎えたということである。すなわち、大震災の被災後の対応、高齢社会へのアプローチなど、新しい医療体制のもとでの新しい発想が求められている。目の前に山積する問題も、医療費の増大、マンパワー不足をはじめ、種々の医療資源の枯渇がクローズアップされ、これらに対する早急な施策が求められている。これらに対する解決策こそ新しい未来型医療としての統合医療がその有力な方法論になりうることを信じていたい。

図に示すように、まず、国民自身の役割として、自己の健康状態の客観的評価とさらなる健康獲得の努力が必要である。一方、医療関係者の役割としては、免許・資格等により3群にわけられる職種が、それぞれの専門性を発揮して未来型医療を担うための新しい役割を再構築し分担していくことになろう。とりわけ、健康ゾーン、未病ゾーンにある一般市民のパートナーとして、あるいはコーディネーターとしての役割が期待される。看護師や准看護師の

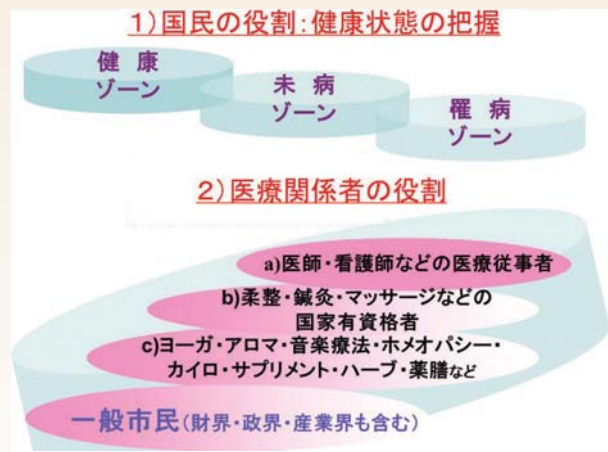


図 未来型医療としての統合医療の新しい展開

登録数が最多であることから、今後の看護職の統合医療における働きが期待できる。さらに、現在は国家資格に至ってはいないが、有用な経験知を土台にしたCAMの登録者数も多数にのぼっており、新しい教育カリキュラムや臨床体験プログラムを創生し実行することが必須となる。

世界に目を向けると、医療先進国である欧米や日本など、そして伝統医療と近代医学の2種の医師免許を有する中国・インド・韓国など、またアフリカなどの発展途上国等、それぞれの医療事情は異なっている。だが、伝統医療が多く用いられている国では、これを知的財産として国家的なプロジェクトのもとに海外への普及策を講じていることを見れば、日本としても統合医療を国策として考える必要性があるのではないだろうか。先進国でも、たとえば米国ヒューストンのMDアンダーソンがんセンターに

においては、進行がん患者への最先端医療とヨーガ・鍼灸・瞑想・栄養療法などの連携による、いわゆる統合医療が試みられ、実績を上げつつある。

わが国でも、統合医療センターを創設し、臨床的エビデンスを集約した上で国家的レベルでの展開が望ましい。国としての2025年医療モデルも提示され、高度急性期から地域包括ケアへの方向転換が示されている今こそ、統合医療への追い風十分である。これを活用して一日も早く国民に安全安心で効

能効果の担保された日本の未来型医療としての統合医療を提供するよう最大限の努力をする時期と考える。

(上記は、去る10月21日、自民党議員連盟の勉強会に招かれ統合医療について話した骨子である。勉強会には、会長の橋本聖子議員を始め、鴨下一郎、大西英男、中川雅治議員ら総勢100名を超える衆参両院議員、関係各省庁の実務管理者クラスの出席があり、質疑応答も活発であったが、字数の関係で省略する)。

リレー連載

私の考える統合医療

| 小坂橋 喜久代 |

京都橘大学看護学部



相補代替伝統医療連合会というような名称の集會が開催されたのは、15年以上も前のことになりました。その開催のニュースは「医学界新聞」の広告のページにありました。何かヒントが得られるような気がして出かけたのが、統合医療について考えるきっかけになりました。もともと統合されていたものを、分析し解析し暴き出せるところを暴くという過程を繰り返してきたところに、今日の科学的医学があるといわれます。今日の高度医療の臨床において、それを処方する人も処方される人も、相当にアンビバレントな感覚を体験せざるを得ないという気がしています。「これでもか」とたたみかけるように指示される諸検査、しかしその術を使わずして診断にズレがあろうものならば、批判されることになることもわかるので、苦しく有り難い検査を受け続けなければ、診断名と処方が貰えないのです。その過程で、相当に生命力を消耗させられて、治療が始まる前から十分に患者になりきってしまうのです。

しかしさらに元をただせば、医療は人々の生活の中にあつたものなのだから、そこに信仰や生活の過ごし方、所属する社会の規律も混在し分けがたく、全体的に見渡した中で、経験を積み重ねてきた優れた知患者である崇

高なる治療家からの指南が与えられたことだろうと納得できるのです。振り返るところは、分けがたく混在する息づく生活の姿であり、そこが私の考える統合医療の出発点であるということです。

分析術によって発展してきた科学技術のおかげで、決して見えるはずがないと思われていた素粒子の姿までもが見え始めた今日、見えるようになったことが悪いことのはずはありません。そのことをしっかりと見極めたうえで、元の姿、つまり丸ごとの臨床の場に戻って、全体性を描くことのできるゆとり（大局的な視点）があれば大丈夫だと思います。それゆえに、もう一度、統合的に見渡す視点を取り戻し発展させる過程に、今日の統合医療があり、その中での看護の役割があると思います。看護の役割はいつもシャドーワークと位置づけられてきたのですが、それで充分だと思ふようになりました。なぜなら、治療していく力を持っているのは患者自身であり、それを背後で支える力こそが、重要なものだと考えるからです。人は、あからさまに自分の生活に踏み込んでほしくはないし、指示されても簡単には修せるものではないから、いかに見苦しくても、そこで看護^{みまも}ってほしいのです。これまでも患者中心の医療ということが言われてきましたが、改めて統合医療というときには、患者自身に備わっている力を引き出すことの重要性に焦点が置かれています。看護師はそれを本人に気づかせる役割を負っていると言えるでしょう。

冒頭に紹介したその会議で、出会った唯一の看護の専門家は、川島みどり先生でした。先生が率先して今日の看護と統合医療を牽引しているということに、改めて大きな感銘を受けるものです。

第32回 日本東方医学会

主催：財団法人東方医療振興財団 後援：厚生労働省・日本医師会
開催日：平成27年2月15日 会場：東京国際フォーラム

メインテーマ：「食と統合療法」

会頭：中村 信也(東京家政大学教授 医学博士 整形外科医)

・会頭講演「生活習慣病の原因とカロリー摂取について」

・教育講演「養生薬膳のすすめ」松繁 克道(薬草資源開発研究所 所長)

▽シンポジウム

・「止めよう老ける食事」林 泰史(都立リハビリテーション病院 前院長)

・「免疫を高める食事」谷 美智士((財)東方医療振興財団 理事長)

・「高齢者の腸にやさしい食事」本間 龍介(スクエアクリニック 副院長)

・一般口演：漢方、鍼灸、サブリ、総論より会員の口演を行います。

参加費：会員5,000円 学生1,000円 非会員6,000円

学会事務局：TEL 03-5220-1225 FAX 03-5220-1241

日本東方医学会会員募集中！ 入会者特典あり(無料体験、無料招待)

「IMJニュースNo.15」に続き、新しい理事の氏名と抱負をご紹介します。職種、所属、職位は省略します。

●理事としての抱負

星野恵津夫 (1)東アジア(中国・台湾・韓国)の統合医療を行なう医師との交流。(2)欧米でがんの統合医療を行なう医師と交流し(漢方+α)を紹介。(3)当学会で監修した、患者向けの、統合医療による疾患別の治療法(「○○の統合医療」)をシリーズで出版。

第18回大会へのお誘い

統合医療女性の会企画プログラム

「統合医療からみた現代女性のワークライフバランス」

日時：12月20日

13:00～13:40

第18回日本統合医療学会への積極的ご参加を！

プログラムの概要 詳細は、ホームページをご覧ください。▶▶▶

第18回 日本統合医療学会

IMJ
2014

<http://www.imj2014.com/>



会期 平成26年12月20日(土)・21日(日)

会長 堀田 清二
(昭和大学医学部 脳神経解剖学講座 教授)

会場 パシフィコ横浜 会議センター
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

主催 第18回日本統合医療学会組織委員会

第17回日本アロマセラピー学会学術総会(荒川秀俊大会長)と合同開催

統合医療の世紀

健康長寿社会の実現



運営事務局

〒108-0073 東京都港区三田3-13-12 三田MTビル8階 (株)アイエス・エス内
TEL: 03-6369-9984 FAX: 03-3453-1180 E-mail: imj2014@issjp.com



対馬ルリ子先生



水島広子先生



板村論子先生

講師は、産婦人科医・対馬ルリ子さん(対馬ルリ子ライフクリニック銀座院長、左)と、精神科医・水島広子さん(対人関係療法専門クリニック院長、中央)、座長は板村論子さん(医療法人財団帯津三敬会帯津三敬塾クリニック理事長、右)です。

女性は妊娠・出産、育児などのライフイベントにより生き方を大きく左右され、自分が望む役割と社会から期待される役割のなかで様々な心の問題に直面します。BMJ(ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル)の定義によると、健康とは「周囲に適応し、かつ自己を管理する能力を持っていること」です。近年、政府の政策にもワークライフバランスが掲げられるようになりましたが、女性にとってのワークライフバランスは単なる仕事とプライベートの調和に留まらず、「自分の健康」と「期待されている役割」のあいだで上手にバランスをとることだといえるでしょう。今回の講演では、自分自身が自分の健康状態を把握し、自分の心身を快適に保ちながら人生をデザインしていくことの大切さについて考えるきっかけを皆様提供していきたいと考えています。

前半で「変化したライフサイクル」「女性ホルモンの変動」「期待されている役割」という女性を取り巻く三大要素を取り上げ、女性が自身の問題と上手に付き合うための自己マネジメントについて対馬さんに語っていただきます。後半では、「IPT(対人関係療法)で乗りきるライフイベントと対人関係ストレス」と題し、職場で抱えがちな対人問題への対処法を水島さんに教えていただきます。

女性が心身共に健やかに働くためには男性の理解も必要であると感じます。ぜひ、女性ばかりでなく男性にも参加していただきたいと思います。

また2講演の後にはアロマセラピー学会による特別企画も開催されますので、ふるってご参加ください。

「特別企画 癒しの空間」:

12月20日(土) 15:20～17:50

進行: 荒川 秀俊, 稲本 正

15:20～16:10 森からみる未来 演者: C.Wニコル

16:10～16:50 森の香りの可能性 演者: 稲本 正

17:00～17:40 環境と対話する建築 演者: 隈 研吾

〈統合医療 女性の会〉ウィークエンド・セミナー
「続・かしこく、ていねいに食べる」

田村 英子 |
帯津三敬塾クリニック

昨年開催して皆様から好評をいただいた公開セミナー「かしこく、ていねいに食べる」の拡大版として2014年8月30日、10月4日、11月1日の3回にわたりウィークエンド・セミナー「続・かしこく、ていねいに食べる」を開催しました。

講師は〈統合医療 女性の会〉世話人の、看護師・川嶋みどり先生（日本赤十字看護大学名誉教授）、歯科医師の小山悠子先生（サンデンタルクリニック理事長）、医師の板村論子先生（帯津三敬塾クリニック院長）の3名でした。代表・渥美英子先生の開会挨拶に始まり、大盛況のうちに幕を閉じました。

病気予防のための栄養学、口腔ケア、日本における「食」の岐路など、内容は多岐にわたり、医療従事者としての視点に、妻としての視点、母としての視点を加え、情報を発信していただきました。

社会の進歩により環境やくらしは変化し、なかでも「食」をめぐる環境は最も大きく変化しているように思います。女性が社会で活躍することが期待されるように

なり、母親が中心となって家族で食卓を囲むという風景は徐々になくなりつつあります。かつてあった「食」を大切に思うところが失われてきています。3回のセミナーを通して昔ながらの「食」を大切にすることを現代社会の生活にどのように取り入れていくかを考える必要性を感じました。私自身の「食」に対する意識が変わり、とても有意義な時間となりました。

セミナー参加者のアンケートには、「おいしく作って楽しく食べることの意味を再認識できた」「日々の忙しさや、マンネリ感で、手抜きになりがちでしたが、改めて食の大切さに気づかされました。不機嫌に食事の支度をするのではなく、重要な役割を務めていると前向きに考え、楽しく料理したいと思います」などの感想をいただきました。セミナーを通じて皆様の「食」に関する意識も変わったのではないのでしょうか。

また、〈統合医療 女性の会〉では来年度の活動として、医療従事者が健康の水先案内人となり、一般の皆様への健康に関する悩みに応えることのできる場を提供していく予定です。「病気を管理する医療」から「未病を管理する医療」へシフトしていけたら、世の中はどのように変化するのでしょうか。個人レベルの努力でも医療の現状を変えることはできます。その個人の一歩が社会にとって大きな力となるはずです。〈統合医療 女性の会〉に関心を持たれた方のご入会をこころよりお待ちしております。

ホームページ <http://aimw-r.com/>

事務局だより

【会議開催報告】

- 10月20日 理事長諮問委員会(会場：ルノアール八重洲)
- 11月10日 企画運営委員会(会場：ルノアール八重洲)
- 11月10日 業務執行理事会(会場：ルノアール八重洲)

【今後の学会事業予定】


- 12月19日 平成26年度第2回通常理事会(会場：ステーションコンファレンス東京)
- 12月20日、21日 第18回日本統合医療学会(IMJ2014横浜大会)(会場：パシフィコ横浜)

- 12月21日 資格認定試験(詳細は学会HP及び学会誌参照)(会場：パシフィコ横浜)
- 第18回日本統合医療学会会期中に代議委員会・会員総会を開催(詳細は学会誌に掲載)
- 2015年3月14日、15日 静岡・山梨支部設立総会(会場：静岡県、詳細は後日)

【お知らせ】

- 1月下旬または2月初旬、東京にてウインターセミナーを開催予定(文責：事務局長 河野 明正)

編集後記 ●IMJ第18回大会は、17回アロマセラピー学会の学術集会と合同開催です。それぞれの学会の独自性を認め合いながら、2つの学会のプログラムを選択できるメリットを活かして有意義な研鑽ができますように。●会員相互の交流は、年に1度の学術集会だけではなく、ニュースレター上でも可能です。FBやツイッターのように即時性はありませんが、年に4回発行予定です。情報発信、会員相互の交流・討論を図る場として積極的に活用して頂きたいと思えます。全国に拡がりつつある支部からの投稿も大歓迎。●課題山積の年末ですが、お健やかな新年を心から祈念いたします。(川嶋みどり)



オゾン療法研究 創刊号

オゾン療法とは？

目次
「日本オゾン療法研究所」開設にあたって
「オゾン療法研究」の創刊にあたって
「オゾン療法研究」定刊に寄せて
寄稿 オゾン療法の不思議
その臨床効果と作用メカニズムについて
付 オゾンテラピー体験記

小尾 隆
神力 就子
三浦 敏明
綾崎井 勝
増田 四一

オゾン療法 NOW and FUTURE

オゾン療法は難病と言われている症状に劇的に効果があります。ヒルシュブルグ病、線維筋痛症、交通事故後2年も歩行困難だった症状、壊死による足指・脚の切断回避など事例は多くあります。オゾン療法は全身のいたる所、いろんなレベルの病状に効きます。一つの薬でこういう事は考えにくいことです。これまで、オゾン作用は自然治癒力を引き出すと言われてきましたが、この本体が最近、判明しつつあります。一例をあげるますと「オゾンの作用で細胞機能を刺激するセカンドメッセンジャー、例えば Nrf2 が産生され、不足していた酵素産生や酵素活性の賦活をすることで、その病態が改善あるいは治療に向かうと考えられます。詳しくは「オゾン療法研究」創刊号を参照下さい。

日本オゾン療法研究所/(有)オゾノサン・ジャパン
〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条6丁目5-47-603 TEL: 011-818-8324

